*　　*　　*　　*

四分胞子体だけが報告されていた紅藻モツキフチトリベニ (*Rhodophysema georgii*) の生活史を培養実験と天然産の個体の観察により調査した。天然には四分胞子体のほかにそれと同形の雄性配偶体及び四分胞子嚢と精子嚢を同時に形成する個体が出現するが，雌性配偶体はみられない。培養実験において四分胞子体より放出された胞子の発芽体は，約 2 ケ月後に全て成熟し，四分胞子嚢と精子嚢を別々に，また同時にそれらを形成する 3 種類の個体の出現数が 3:1.5:1 の割合であった。以上の結果から，本種の生活史には四分胞子体及びそれと同形の雄性配偶体は存在するが，雌性配偶体は欠けていることが明らかとなった。

□吉村　庸：**原色日本地衣植物図鑑**　A5 版 16+349 頁，カラー図版 48. 保育社 (1974. 8). ¥3,400. 地衣類では始めての本格的図鑑の出現である。植物群のなかで，専門外の人々にもっとも親しみにくく，わかりにくいこのグループを身近かなものに感じさせる功は大きい。主な属では種の検索表があり，各種の特徴も要領よくまとめてあり，日本産の大形地衣類はともかく，中・小形とくに固着地衣の研究がほとんど進んでいない現状で，ここまでまとめあげられた著者の労をねぎらいたい。カラー図版も一部のものを除いてよくできているが，白黒の拡大図には倍率が示してあるのに，カラー拡大図に倍率が明示してないのは惜しい。日本の地衣類を扱う専門家にも，アマチュアにも，本書は当分の間スタンダードとして利用されることになると思うので，あえて 2・3 の苦言を呈する。本書に登載された地衣類全種に和名がつけられていて，新しく和名のつけられたものも多い。和名が必要か否かについては意見のわかれるところだが，著者自らが地衣類にこれほど徹底して和名をつけることが必要と考えたのであろうか。また，かりにそうとしても，和名のつけ方にもうひと工夫ほしかった。かな書きの植物用語や地衣成分の名称のいくつかに首をかしげるものがある。とくに地衣成分の場合には，ドイツ語に書き替えたものの発音からかな書きにする従来の習慣を守る方がよかった。学名の選択については，新しい研究によるものをできる限り採用した著者の努力は認めるが，図鑑という本書の性格と，2〜3 年もすれば相当数学名を書きかえねばならぬ地衣学の現況から考えると，もっと定着した学名を使ってもよかったのではなかろうか。かなりの数の誤植の訂正と併せて，版を重ねるとともにさらに立派な図鑑になることを祈る。　　　　(黒川　逍)